
柔らか童話シリーズ

零蒼院 漣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

柔らか童話シリーズ

【Nコード】

N1020R

【作者名】

零蒼院 漣

【あらすじ】

柔らかい、昔話のような物語を紡げればいいなと思っております。なるべく自分の頭で考えて書きたいとは思っておりますが、それ以前に、私が子供のころに読んだ絵本やハードカバーの童話などをモチーフにした掌編を綴りたいと考えております。ただ、わたくし非常に遅筆なもので、更新速度には期待されませぬよう、謹んでお願い申し上げます。

プロローグ

（プロローグ）

夜、真宵まよひの暗いカーテンが下りたアト、

暗闇に住む住人達は起きだしてくるといいます。

曰く、吸血鬼ヴァンパイア 狼人間ワウルフ 妖アヤカシ 妖怪 などのヒトならざる者

達がそうなのです。

そんな中、カーテンの下りた町の中、一人の子供が居りました。

三角帽子に丈長ローブ。

色はぜえ〜ん真っ黒けツけ。

人の中でも 魔女ウィッチ とか 変人フィーラー とか、あるいは 魔法使いマージン と

か呼ばれている人達です。

そんな人達の格好に、その子供の格好はよく似ていました。

だから周りの「人たち」はその子供を指さしてこう言いました。

魔女見習いハイフ・ウィッチ と。

この物語はそんな子供たちのお話です。

では、語り部においでいただきましょう。

「クリックク!?」（聞きたいかい!?）

『クラックク!!』（聞きたいよ!!）

プロローグ（後書き）

批評・感想お待ち申し上げます。

ただ、その際にはぜひ柔らかい表現をしていただければありがたい限りでございます。

第一譚 ハーメルンの笛吹き男（前書き）

「ハーメルンの笛吹き男」オリジナルの要素はほとんど残っておりません。

オドロオドロしいオリジナルとは打って変わった

柔らかい「ハーメルン」の物語を、どうぞ召し上がれ

第一譚 ハーメルンの笛吹き男

むかあしむかし、それはまだ、「銃や「剣」が創られるよりも前の物語。

ヨーロッパのどこか小さな村。

おじいさんと小さな男の子がいつしよに住んでいました。

おじいさんの名前はハルス、男の子の名前はハーメルンと書いてた。

ハルスは偉大な魔法使いで、毎日毎日何人もの弟子が通って来ていました。

そんなおじいさんを見ていたので、ハーメルンも まほう を使いたく使って使いたくして仕方ありませんでした。

その事をハーメルンがおじいさんに話す度に決まっておじいさんは言いました。

「ハーメルン、よくお聞き。わしはな、今でも後悔しておるんじや。確かに魔法は便利じゃし、役にも立つ。だがしかし、それは同時に悪用しようと思えばこれ以上は無武器になる。そういう輩をわしは幾人も見てきた。だからな、良きにせよ悪しきにせよ、わしは魔法 の使える人間は増えるべきでは無いと思うのだ。力は只力と言うが、『大き過ぎる力は身を滅ぼす』のじゃ。だからな、ハーメルン、お前は 魔法 に関わるな。アレは、良くも悪くも紙一重の、力、なのだ。己にその気が無くとも周りの者を狂わしてしまう。わしはお前に、そんな風になつてほしく」

ですが、ハーメルンは諦められませんでした。

だから、ハーメルンはハルスの目を盗んでは本を読み、呪文を唱え練習に励みました。

そして、ハーメルンが13歳になる頃には、ハーメルンはハルスよりも力のある 魔法使い になつていました。

ハーメルンは考えました。他者に害を与えない、他者の為の魔法。そして、ハーメルンは思い付きました。

家族から虐待を受けている子や友達に苛められている子。そこに居たくない、どこか消えてしまいたいと願っている子の為の魔法。

ハーメルンは夜、大人も子供も寝静まった真夜中に、笛を吹いて回りました。

するとどうでしょう、寝静まった村から一人、二人、三人、と子供達が歩いてきます。

「さあ！みんなおいで。もう、大人も友達も苛めない。森で皆で暮らすんだ。」

神様は怒りました。

何故ならハーメルンの魔法は『子供達をさらう』というモノだったからです。

ですが、神様は悩みました。ハーメルンのやり方は確かに間違っていました。が、苦しみの中にいた子供たちを開放した事には変わりないのです。

だから、神様はハーメルンを呪う事にしました。

それからと言うもの、ハーメルンはずっと13歳のままなのです。

今夜も夜空に笛の音が響きます。

可哀相な子供たちの為に。

今でも時折笛の音が聞こえます。

ハーメルンは今でも子供たちを助けています。

いつしかハーメルンの事を『人さらい』だと言う人が増えました。

夜、笛の音が聞こえたら、絶対に外に出てはいけませんよ。ハーメルンの笛吹き男に連れて行かれてしまうのだ、と。

ハーメルンは後悔をしていません。だって、ハーメルンの笛の音に導かれて来た子供たちはみんな笑顔でハーメルンに「ありがとう」って言ったから。

だから、これで、

「ハーメルンの笛吹き男」のお話はおしまいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1020r/>

柔らか童話シリーズ

2011年10月10日01時07分発行